

【人文学】

研究ノート

長崎方言話者による

「イチゴが売ってある」という表現について

—質問紙および地方議会会議録調査から—

桑戸 孝子*¹・上野 誠司*²

KUWATO Takako and UENO Seiji

On the expression *Ichigo ga utte aru* 'There are strawberries being sold'
 used by Nagasaki Japanese speakers
 —Results of a questionnaire survey
 and an analysis of local assembly minutes —

Keywords : *utte aru* (売ってある) , *te aru construction* (テアル構文) , Nagasaki Japanese(長崎方言) ,
 unnoticed dialectal forms (気づかない方言) , *existential expressions* (存在表現)

1. はじめに

長崎市議会会議録に次のような発言がある。

(1) もう1点は、ちょっと、方向が変わりますが、イワシの問題です。つい先日、ジャスコに、ちょっと、魚を食べたいものですから買いに行きましたら、イワシが売ってありました。

[2003.08.22:長崎市:平成 15 年水産振興特別委員会]
 (中村委員)

上記(1)には、「[対象]ガ売ってある」という構文が認められる。文脈からわかるように、(1)の「イワシが売ってありました」というのは、「ジャスコに行ったところ、売り物としてイワシが存在していた」という意味である。

本来、共通語ではテアル文は、(2)のように意志的行

為の結果としてもたらされる状態、すなわち結果相を表す表現であるとされている¹⁻²⁾。

(2) 冷蔵庫にジュースが入れてある。

この共通語のテアル文の意味を動詞「売る」に当てはめれば、「売ってある」は、売り手から買い手に対象の所有権が移動したあとの状態を表すことになり、(1)のような「対象がある場所に売り物として存在している」という意味を表す形としては適格ではない。

しかし、長崎方言話者は「[対象]ガ売ってある」という表現を、(1)のような「対象が売り物としてある場所に存在している」という意味で用いるのである。桑戸・上野では³⁾、(1)のような非結果相の「[対象]ガ売ってある」という表現を「売ってある表現」と呼び、その存在を指摘し特性を明らかにするとともに、売ってある表現が「気づかない方言」である可能性が高いこと

*¹ 共通教育部門 講師

*² 共通教育部門 准教授

2018年9月28日受付

2018年11月28日受理

を指摘した。

しかし、その調査の規模は小さく、質問紙調査の設問も共通語意識の有無を問う目的で作成されたものではなかった。また、売ってある表現の特性についてもさらなる考察が必要であった。そこで本研究では、売ってある表現の共通語意識の有無およびさらなる特性を明らかにすることを目的に質問紙を作成し、より多くの被験者を対象に質問紙調査を実施することにした。

本稿の構成は次の通りである。まず第 2 節では、先行研究である桑戸・上野³⁾を概観し本稿の課題について述べる。次に第 3 節では、本稿での 2 つの仮説を提示する。第 4 節および第 5 節では、質問紙調査と地方議会会議録を用いた調査の結果を分析し仮説の検証を行う。さらに、第 6 節では、売ってある表現における「売る」という動詞の意味について考察する。最後に、全体のまとめと今後の課題について述べる。

2. 先行研究と本稿の課題

前述したように桑戸・上野³⁾では、売ってある表現の統語的・意味的特性を明らかにし、売ってある表現が気づかない方言である可能性を指摘した。本節では、桑戸・上野³⁾を概観し、当該研究における問題の所在について述べる。

2.1 売ってある表現の特性：桑戸・上野（2011）による分析

桑戸・上野³⁾では、益岡¹⁾、影山^{4,5)}の共通語のテアル構文の分析に基づき、共通語のテアル構文 A1 型と長崎方言話者の売ってある表現とを比較・分析することにより、売ってある表現の特性を明らかにした。

まず、売ってある表現と共通語のテアル構文 A1 型との間には以下の共通点が確認できた。第一に、両者は「対象」の意味役割を担う名詞句がガ格の位置を占める。第二に、「動作主」項は抑制され一般に表面には現れない。しかし、「～するために」といった動作主を含意する目的節や「わざと」が共起可能であることから、統語構造上に動作主が存在すると考えられる。第三に、存在動詞アルとの等位接続が可能であることから、一種の存在表現としての特徴を持っている。

一方で共通語のテアル構文 A1 型との違いも確認できた。第一に、共通語のテアル構文 A1 型では、「V テアル」の V は「置く」・「並べる」・「飾る」などの「配置動詞」と呼べる他動詞が主であるのに対し、売ってある表現では「売る」という配置動詞以外の動詞が関与している。第二に、共通語のテアル構文 A1 型が「行為の結果もたらされる、対象の或る場所での存在を描写するタイプの表現」、すなわち結果相の意味を表すのに対し、売ってある表現は「対象が売り手から買い手に売られたあとの状態」ではなく、「対象が売り物として存在する」という非結果相の意味を表している。

以上のように売ってある表現は、共通語のテアル構文 A1 型同様「[対象]ガ V テアル」という形を取っているが、一方で「売る」という設置動詞以外の動詞が関与し、意味的にも共通語のテアル構文の本来の意味である結果相を表すものではないのである。

2.2 売ってある表現の「気づかない方言」としての位置づけの提唱

桑戸・上野³⁾では、「気づかない方言」の概念について先行研究をもとに論じ、「気づかない方言」と呼べるための必要条件を「①共通語だとの意識があると確認できること」かつ「②地方的共通語としての安定性が確認できること」とし、「③語形が共通語と同じであること」を共通語視の可能性の存在の傍証とした。そして、売ってある表現がこの 3 つの条件を満たしているかを検証した結果、以下の理由から、売ってある表現は気づかない方言である可能性が高いことを指摘した。第一に、①の「共通語だとの意識があると確認できること」については国会会議録検索システムを用いた調査および長崎方言話者に対する質問紙調査により、売ってある表現を共通語だとする意識があることが窺えた。第二に、②の「地方共通語としての安定性が確認できること」については、田中（2006）の地方共通語としての安定を検証するためにはフォーマル文体・改まった場面・配付印刷物や出版物での書き言葉のいずれかでの使用が確認できることを必須とすべきであるという提案に基づき検証した。その結果、国会における長崎出身者の発話、長崎にある立て看板、論文での記述に売ってある表現が使用されていることが確認できた。第三に、③の「語形が共通語と同じ

であること」については、前項(2.1)で述べた通り、売ってある表現は「対象」の意味役割を担う名詞句がガ格の位置を占め、これは共通語のテアル構文 A1 型と同じであることが確認されている。

これらのことから、売ってある表現を気づかない方言だと特徴づけるに足る必要な条件を満たしていると考え、売ってある表現は気づかない方言である可能性が高いと指摘した。

2.3 本稿の課題

桑戸・上野³⁾には残された課題も多かった。まず、長崎方言話者を対象とした質問紙調査は 46 名と小規模であり、そのうち 10 代の被験者が全体の 67% を占めていた。また、質問紙調査は売ってある表現の容認度を調べる目的で実施されたものであり、これをもって共通語意識を持っていると断定するには十分とは言えなかった。そのため、売ってある表現が気づかない方言であるという提唱も、その可能性が高いという表現にとどまった。

さらに、売ってある表現の特性についても議論すべき点が残されていた。前述したように、売ってある表現は共通語のテアル A1 型と共通点が多く一種の存在表現であると考えられる。つまり、動詞「アル」の存在の意味を強く残していると言える。これを支持する証拠として、次の 2 点の検証を行いたい。第一に、ガ格に現れる名詞の有生性容認度についての検証である。益岡¹⁾は、A1 型の上位類である共通語のテアル A 型の特徴として、「ガ格に現れる典型的な名詞は非情名詞である」と指摘しており、これは下位類である A1 型にも当てはまる。共通語のテアル構文 A1 型と多くの共通点を持つ売ってある表現についても同じことが言えるのかを検証する必要がある。第二に、売ってある表現およびその変種である「箱売りしてある」「量り売りしてある」などの表現に対する容認度を調査することで、動作主含意の濃淡により差が見られるかを検証したい。本動詞「アル」は対象物の存在を表す状態動詞であり、動作主を語彙的に含意しないので、この本動詞「アル」を主要部とする単一の動詞句の中では動作主の行為を含意する語句は意味的に共起し難いことが予測される。これにより、売ってある表現に本動詞「アル」の特性が反映されているかを探ることができよう。また、この調査により売ってある

表現の「売る」という動詞の意味についても考察することができると考える。前述のとおり、売ってある表現の「売る」という動詞は配置動詞ではないものの、配置動詞が関与する共通語のテアル構文 A1 型と極めて類似した特徴を持つ。これは、売ってある表現の「売る」という動詞が「商品などの対象を代金を受け取って買い手に渡す」という動作主の行為を色濃く含意せず、「『売る』という目的のために商品などの対象を店頭などの場所に設置した」ことを表しているためだと考えられる。動作主含意の濃淡による容認度を調査することで、この点についても検証できると考える。

そこで本研究では、以上の 3 つの問題点(①売ってある表現の共通語意識の有無、②有生性容認度、③動作主含意濃淡による容認度)を明らかにする目的で質問紙を作成し、より多くの被験者を対象に質問紙調査を実施することにする。それにより、①売ってある表現は気づかない方言であるか、②売ってある表現では、本動詞「アル」の語彙的特性が色濃く保持されているかという 2 点について検証するものとする。さらに、①の気づかない方言の検証においては、共通語使用場面での売ってある表現の使用実態について調査することを目的に、地方議会会議録検索システムを用いた調査も実施することとする。

3. 仮説の提示

本節では、前節で提起した問題に対する次の仮説を提示する。

【仮説 1】長崎方言話者による売ってある表現は、気づかない方言である。

【仮説 2】売ってある表現においては、本動詞「アル」の語彙的特性が色濃く保持されている。

次節では、この 2 つの仮説を支持するデータを提示し上記 2 つの仮説の妥当性を主張する。

4. 気づかない方言の検証

4.1 質問紙調査

本節では、長崎方言話者の売ってある表現に対する共通語意識の有無を明らかにするため、質問紙調査を実施した。

4.1.1 調査の方法

調査は2011年5月下旬から2012年2月中旬にかけて行われた。長崎県内に在住する10代後半から80代までの354名を対象に質問紙を配布し、その場であるいは後日全員から回収し、346名から有効回答が得られた。そのうち、長崎方言話者は279名、非長崎方言話者は67名であった。本調査では、長崎方言話者である279名を分析対象とした。先行研究³⁾からも言えるように、売ってある表現は長崎方言話者にもみられる現象ではないが、今回は調査の初段階として被験者を長崎方言話者のみに限定して分析することにした。279名の年代別の内訳を表1に示す。

表1 被調査者の年代別内訳

10-20代	30-40代	50-60代	70-80代
92人	74人	88人	25人

4.1.2 共通語意識の有無についての調査の結果と考察

売ってある表現の共通語意識の有無を調べるため、下記(3)と(4)の売ってある表現である2つの文を提示し、それが共通語であると考えた場合には「K」を、長崎方言であると思う場合には「N」を、どちらでもないと思う場合には「X」をつけて判定してもらった。

- (3) スーパーにイチゴが売ってある
- (4) スーパーにイチゴの売ってある

(3)と(4)の違いは主格の格助詞の違いである。(3)では日本語の共通語において一般的な「ガ」格が、(4)では長崎方言において使用される「ノ」格が用いられている。

これら2つの文の共通語意識の有無を調査したところ、まず(3)の「スーパーにイチゴが売ってある」については、共通語であると答えた人が219名(78%)、長崎方言で

あると答えた人が14名(5%)、どちらでもないと答えた人が46名(17%)であった。この結果から全体の8割弱の人が「スーパーにイチゴが売ってある」という表現は共通語であると考えていることがわかる。

この78%という数値を同様の気づかない方言の共通語意識調査と比較してみる。陣内⁶⁾では、福岡県内の福岡市博多・北九州市小倉において、それぞれ40名、計80名を対象として「あっている」という表現がどの程度共通語だと意識されているかを調査した。その結果、「あっている」が共通語であるとする意識は、福岡市博多では82.5%、北九州市小倉では90%であったと報告している。

売ってある表現に対する共通語意識は、上記「あっている」に対する共通語意識より低い数値ではあるものの、今回の調査で得られた78%という数値は、売ってある表現が共通語であるという意識が高いことを十分に示していると考えられる。

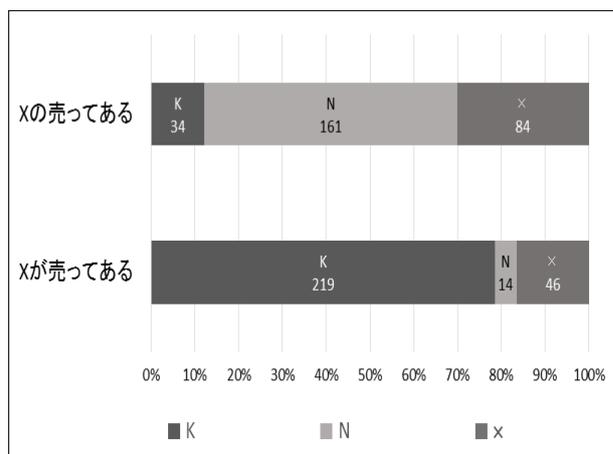


図1. 共通語意識の有無

次に、(4)の「スーパーにイチゴの売ってある」に対する共通語意識については、共通語であると答えた人が34名(12%)、長崎方言であると答えた人が161名(58%)、どちらでもないと答えた人が84名(30%)であった。前述したように、(3)と(4)の違いは、主格の格助詞の違いであるが、「ノ」格が用いられている(4)については、共通語であると答えた人は1割強に留まり、一方で長崎方言であると答えた人は6割近くであることが確認された。

これらのことから、長崎方言話者は同じ売ってある表

現であっても、「ガ」格が用いられた場合は共通語だとする意識が強くなり、「ノ」格が用いられた場合には、長崎方言だとする意識が強くなると言える。

さらに興味深いのは、(4)について、どちらでもないと答えた人が 84 名 (30%) いたということである。そこで、(4)についてどちらでもないと答えた人が (3) の「スーパーにイチゴが売ってある」という表現についてどう判定しているかを見てみると、68 名 (81%) が共通語であると判定していることが確認できた (長崎方言: 4 名 (5%)、どちらでもない: 12 名 (14%))。つまり、この 68 名は (4) の「スーパーにイチゴの売ってある」という文を、共通語である「売ってある」と長崎方言である「ノ」格の組み合わせであり共通語でも長崎方言でもないと判断し、「どちらでもない」と回答したと考えられるのではないだろうか。

また、本調査では上記 (3) (4) の判定とともに、売ってある表現と類似した意味を持つ「売る」を用いた下記 4 つの文を提示し、それらについても共通語意識の有無を調べた。

- (5) スーパーでイチゴば売りよる。
- (6) スーパーにイチゴの売っとる。
- (7) スーパーでイチゴを売っている。
- (8) スーパーにイチゴが売っている。

(5) (6) は、共通語の「売っている」の「ている」を長崎方言に置き換えたものである。また、(7) は共通語、(8) は本来文法的には適格ではないものの近年その使用が確認されるようになった「イチゴが売っている」という表現である。これら 4 文と売ってある表現との共通語意識についての比較も必要であるが、それは次稿に譲ることにする。

4.2 地方議会会議録を用いた調査

地方議会はあらたまった場であるため、話者が共通語として認識している表現が現れやすいという性質があり、気づかない方言を考察するのに適している⁷⁾。また、田中⁸⁾は、気づかない方言の必要条件の一つである「地方的共通語としての安定」においては、明確な共通語使用場面での使用が確認できることを必須とすべきであると

指摘している。

そこで本研究では、長崎県議会会議録検索システム^{注2)}および長崎市議会会議録検索システム^{注3)}を用いて長崎方言話者による売ってある表現の使用実態を調査することにした。

4.2.1 調査方法

本調査は 2017 年 8 月に実施した。検索対象としたのは、長崎県議会会議録検索および長崎市議会会議録の全会議である。まず、「売ってあ」という文字列を含む全データを抽出し、その中から「売ってあります」「売ってあった」「売ってあって」など「売ってある」の全ての屈折形を抜き出し分析を行った。

4.2.2 結果と考察

調査の結果を以下に示す。まず、「売ってある」という形は 37 例存在しており (長崎県議会会議録 21 例、長崎市議会会議録 16 例)、このうち結果相の「売ってある」は 1 例、非結果相の「売ってある」は 36 例であった。この結果により、地方議会という明確な共通語使用場面での売ってある表現の使用が確認できたことになる。すなわち、気づかない方言の必要条件の一つである「地方的共通語としての安定」を満たしていると言える。

次に、非結果相の 36 例を格体制の違いにより分類した。その結果、「[対象]ガ売ってある」が 4 例、「[場所]=[対象]ガ売ってある」が 1 例、「[場所]=売ってある」が 6 例、「[場所]デ売ってある」が 8 例、「[場所]=[対象]ヲ売ってある」が 1 例、「[対象]ヲ売ってある」が 3 例、「[場所]=[場所]デ・[対象]ガ」・「[対象]ヲ」のいずれも伴わない「売ってある」が 13 例確認された (表 2 参照)。

桑戸・上野³⁾での国会会議録検索システムを用いた売ってある表現の調査同様、[対象]ガ格句、[場所]=格句および[場所]デ格句と共起することが確認できた。興味深いのは、本調査において桑戸・上野³⁾の調査では確認できなかった[対象]ヲ格句を伴う非結果相の「売ってある」が 4 例見られたことである。4 例という数字は他の出現数と比較しても決して少ない数字ではない。しかし、これが単なる言い間違いによるものか、あるいは長崎方言話者は「[対象]ヲ売ってある」という表現も容認するのかは本

調査では明らかにならなかった。今後さらなる調査が必要であろう。

表 2. 「売ってある」表現の格体制ごとの出現数

「[対象]が売ってある」	4
「[場所]ニ[対象]が売ってある」	1
「[場所]ニ売ってある」	6
「[場所]デ売ってある」	8
「[場所]ニ[対象]ヲ売ってある」	1
「[対象]ヲ売ってある」	3
「売ってある」	13

さらに、上記非結果相の 36 例を場所句の格体制の違いにより分類したところ、[場所]ニ格句を伴うものが 8 例、[場所]デ格句を伴うものが 8 例確認できた。下記 (9) (10) の発言がその例である。なお、その他の 20 例の発言は、[場所]ニ格句・[場所]デ格句のいずれも伴わないものであった。このことから本調査に限って言えば、[場所]ニ格句・[場所]デ格句いずれも同程度の頻度で使用されていることがわかった。

(9) [平成 23 年 6 月定例会 環境生活委員会-07 月
12 日-03 号]

しかし、本屋にも売ってあるから本屋で買ってもいいんだけれども、あれをもらったような気がするんです。

(田中委員)

(10) [2004.03.18：長崎市：平成 16 年文教経済委員会]

この本は長崎市が編集して、今、原爆資料館で 1,000 円で売ってある本です。

(濱崎参考人)

なお本調査では、調査対象とした長崎県議会会議録および長崎市議会会議録検索システムに保存されているデータが前者は過去 21 年分、後者は過去 24 年分であったため、売ってある表現の年代別出現数については分析を

試みなかった。

4.3 まとめ

本研究では、売ってある表現が気づかない方言であるかを検証するため、質問紙調査および地方議会会議録を用いた調査を実施した。その結果、長崎方言話者の 8 割近くが売ってある表現は共通語であると認識しており、共通語使用場面である地方議会会議録においても売ってある表現が確認できた。

このことから、桑戸・上野³⁾で論じた「気づかない方言」と言える 2 つの必要条件、すなわち「①共通語だとの意識があると確認できること」かつ「②地方的共通語としての安定性が確認できること」を満たしていることが明らかとなった。また、共通語視の可能性の傍証とした「③語形が共通語と同じであること」については、前述したように共通語テアル構文 A1 型と同じであることが明らかになっている。

以上により、仮説 1 の妥当性が支持された。すなわち、長崎方言話者にとって売ってある表現は「気づかない方言」であると言える。

5. 売ってある表現の内在的特性

前述したように、売ってある表現は共通語のテアル構文 A1 型との共通点が多く、一種の存在表現としての特徴を有していると考えられる。つまり、本動詞「アル」の語彙的特性が色濃く保持されていることが窺える。

本節では、上記売ってある表現の特性を検証するため、「有生性容認度」「動作主含意濃淡による容認度」という 2 つの容認度調査を実施する。これにより、桑戸・上野³⁾で主張した売ってある表現の特性を支持するさらなる証拠を示す。

5.1 調査の方法

本調査は、本稿の第 4 章における「共通語意識の有無」についての調査と同一の質問紙にて実施された。したがって、調査時期および調査対象者についても同じである (4.1.1 参照)。

本調査では、10 の文を提示し共通語として自然だと感じるならば○、やや不自然ならば△、不自然だと感じる

ならば×をつけて評価してもらった。なお、本調査項目の分析にあたっては、長崎方言話者 279 名のうち、前節の共通語意識調査で、(3)の「スーパーにイチゴが売ってある」という表現を共通語であると判定した 219 名を分析対象とした。○を 2 点、△を 1 点、×を 0 点として加重平均をとり、その平均値を ANOVA4 on the Web を用いた分散分析および多重比較により検討した。

5.2 有生性容認度

前述のとおり、益岡¹⁾は、共通語のテアル構文 A 型の特徴として、「ガ格に現れる典型的な名詞は非情名詞である」と指摘しており、これは下位類である A1 型にも当てはまる。次の例がそれである。

- (11) 犬が鎖につないである。
- (12) ?人が鎖につないである。
- (13) ?生徒が廊下に立たせてある。

では、テアル A1 型と多くの共通点を持つ売ってある表現についてはどうであろうか。そこで本調査では、ガ格に有情名詞が現れる売ってある表現に対する容認度を調べることにした。次の(14) (15)の文を提示しその容認度を調べた。また、同時に、比較対照として、ガ格に非情名詞が現れる(16)の文および益岡¹⁾で提示された(11) (12)^{注1} (13)についてもその容認度を調査した。

- (14) ペットショップに犬が売ってある。
- (15) 奴隷市場に人間が売ってある。
- (16) スイカが売ってある。

結果を図 2 に示す。図 2 は、これら 6 例の文を長崎方言話者がどの程度「自然な日本語」と感じたかを評価した値の平均値を示したものである。

図 2 からわかるように、ガ格に非情名詞がある(16)の「スイカが売ってある」の容認度は 1.67 と高い数値を示している。一方、ガ格に有情名詞が現れる場合にはその容認度が下がり、「犬が売ってある」は 1.20、「人間が売ってある」は 0.87 であった。これら 3 文の容認度判定に有意差が見られるか分散分析により検討したところ、3 文の容認度判定において有意差が確認された (F

(2,218) = 75.90, $P < .001$)。さらに、多重比較を行ったところ、(14)と(15)、(14)と(16)、(15)と(16)のいずれにおいても有意差があることが確認できた(順に、 t (218) = 4.99, $P < .001$, t (218) = 7.25, $P < .001$, t (218) = 12.25, $P < .001$)。以上の結果により、売ってある表現では、ガ格に現れる名詞として非情名詞の方が容認されやすいということが明らかになった。また、有情名詞についても「犬」と「人間」との容認度において有意差が見られることから、動物と人との間でも容認度に有意差があり、ガ格に「人」が現れる場合は容認されにくいということがわかった。

次に、益岡¹⁾が提示した共通語のテアル A1 型の(11) (12) (13)の容認度について見てみると、犬、人質、生徒の順に容認度が低くなっており、有意差が認められた (F (2,218) = 125.76, $P < .001$)。つまり、売ってある表現同様、ガ格に現れる有情名詞が動物か人かにより、その容認度に有意差があり、ガ格に「人」が現れる場合は容認されにくいということが確認できた。

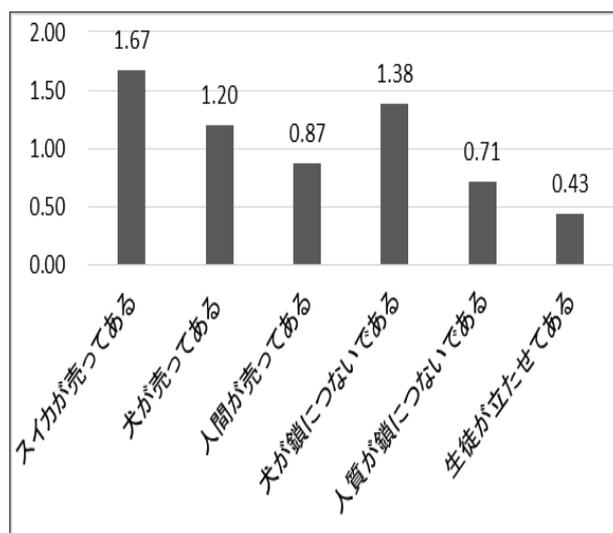


図 2. 有生性容認度

以上のことから、売ってある表現では、①ガ格に現れる名詞は非情名詞の方が容認されやすく、②有情名詞の場合は動物と人との間で容認度に差があり、ガ格に人が現れる場合は容認されにくいと結論付けられる。そしてこの傾向は、益岡¹⁾が指摘するテアル A 型の特徴と同じであることもわかった。

周知の通り、存在動詞「アル」はガ格名詞の有生性が

高い場合は使用が避けられる。したがって、売ってある表現において有生性が低いことを要求する選択制限がかかるという事実は、仮説 2 で提示した「売ってある表現においては、本動詞『アル』の語彙的特性が色濃く保持されている」という主張を支持する証拠となると考える。

5.3 動作主含意濃淡による容認度

本調査では、動作主行為の含意の濃淡により容認度に差が見られるかを調べるため、(17) から (20) の 4 文を提示し、その容認度判定および (16) の売ってある表現の容認度との比較を試みた。

- (17) りんごが箱売りしてある。
- (18) CD が安売りしてある。
- (19) ワインが量り売りしてある。
- (20) バナナがたたき売りしてある。

ここで、上記 (17) から (20) の動詞の動作主の行為の含意の濃淡について考えてみる。まず、「ワインが量り売りしてある」および「バナナがたたき売りしてある」という文について考えてみよう。これらの文では、複合語「量り売りする」の「量り」、「たたき売りする」の「たたき」という前項部分が後項「売り」の表す動作と並行して行われる動作を表しており、店員などがワインを量って売っている姿、または机などをたたきながらバナナを売っている姿が浮かぶ。すなわち、売り手行為者（動作主）の動作行為を強く想起させる表現であると言える。他方、「CD が安売りしてある」および「りんごが箱売りしてある」という文では、複合語「安売りする」「箱売りする」の前項「安」「箱」は、動作主に言及するものではなく、安売りされている商品、または箱に入っている商品の状態を表している。すなわち、ガ格で表わされる対象の状態を表していると言える。

以下に容認度調査の結果を示す。まず前述の通り、「スイカが売ってある」の容認度は 1.67 である。次いで、「箱売り」(1.53)、「安売り」(1.23)、「量り売り」(1.08)と続いている。最も低かったのは、「たたき売り」で 0.80 であった(図 3 参照)。

分散分析により検討した結果、 $F(4,218) = 65.48$ で、上記 5 文における容認度の差は有意であった。さらにラ

イアンの方法による多重比較の結果、(16) と (17) ,すなわち「スイカが売ってある」と「りんごが箱売りしてある」の間に有意差が見られないことが確認できた ($t(218) = 2.17, ns$)。それ以外の文の間における容認度の差は有意であった(表 3 参照)。

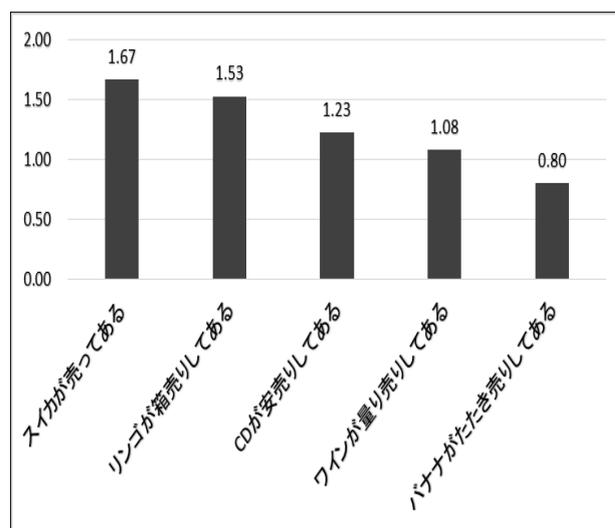


図 3.動作主含意の容認度平均

表 3. 動作主含意の容認度 (16) ~ (20) の多重比較の結果

pair	r	nominal level	t	p	sig.
1 - 5	5	0.0050000	14.223	0.0000000	s.
1 - 4	4	0.0066667	9.657	0.0000000	s.
2 - 5	4	0.0066667	12.052	0.0000000	s.
1 - 3	3	0.0100000	7.186	0.0000000	s.
2 - 4	3	0.0100000	7.486	0.0000000	s.
3 - 5	3	0.0100000	7.037	0.0000000	s.
2 - 3	2	0.0200000	5.015	0.0000006	s.
1 - 2	2	0.0200000	2.171	0.0302111	n.s.
3 - 4	2	0.0200000	2.470	0.0136908	s.
4 - 5	2	0.0200000	4.566	0.0000057	s.

MSe=0.407436, df=872, significance level=0.050000

以上の結果から、(19) (20) のような動作主の行為の含意の程度が高い場合はその文に対する容認度が低下し、反対に (17) (18) のように動作主含意の程度が低い場合は、容認されやすいということがわかった。

ここで、(16) ~ (20) の調査結果を細かく考察する。まず、動作主の行為が含意されている (19) と (20) について見ると、「たたき売りしてある」の方が「量り売りしてある」よりも容認度が有意に低い。これは、一つ

には、「たたき売りしてある」という文においては机などを活発に叩きながらバナナを売っている姿が想起され、「量り売り」よりも動作主の行為の活動量が多いと判断されるためだと考えられる。また、これと並行すると考えられる原因として、複合語「たたき売りする」の前項動詞が表す「たたき」という動作の対象物は目的語の「バナナ」ではなく、言語化されていない机など別の物であり、「たたき」動作はいくら行っても目的語の表す対象物「バナナ」の状態は変わらないという事実が容認度に影響していると考えられる。他方「ワインが量り売りしてある」は、「ワインを量り」「ワインを売る」という同一対象物「ワイン」に対する動作を表しており、前項「量り」の目的語も後項「売り」の目的語も同じ「ワイン」であり、量った結果の量のワインが売られるという点で、前項動詞「量る」は対象物「ワイン」の（結果）状態を含意している。このようなガ格名詞の表す対象物の状態の含意が無いという点でも「バナナがたたき売りしてある」の容認性は低くなっていると考えられる。

次に、ガ格名詞句の対象の状態を表すと考えられる(17)と(18)について見てみると、「箱売りしてある」に対する容認度は、「安売りしてある」よりも有意に高い。これは、「箱売りしてある」という文においては、「箱」という名詞により、箱に入った商品が店頭などの場所に設置されている映像がイメージされやすく、ガ格名詞句の状態を表す程度がより高くなり動作主の行為の含意がより低くなるためだと思われる。

以上をまとめると、動作主の行為の含意の程度が最も高い（加えて、対象物の状態の含意が無い）「たたき売りしてある」が容認度が最も低く、次いで「量り売りしてある」「安売りしてある」「箱売りしてある」と、動作主の行為含意の程度が低くなるにつれ、容認度が上がると言えるのではないだろうか。

そしてこの事実も、ガ格対象名詞句の存在を表す本動詞「アル」の特性の反映と考えると説明がつき、仮説 2 を支持する証拠となると考える。

5.4 まとめ

本調査によって、仮説 2 の妥当性が支持された。すなわち、売ってある表現の特性として、本動詞「アル」の

語彙的特性が色濃く保持されていることが明らかになった。

以下に、本調査および桑戸・上野³⁾で明らかになった仮説 2 の妥当性を支持する売ってある表現の特性をまとめる。

第一に、長崎方言話者の売ってある表現は「結果相」を表さず、共通語テアル構文にはない「非結果相」の解釈である。すなわち、ガ格名詞句（「対象」という意味役割を担う）が現在存在することを表す。これは、状態動詞である存在動詞「アル」のアスペクト特性そのものである³⁾。

第二に、ガ格名詞句の指示対象が存在する場所を、ニ格で共起させることができる。これも、存在動詞「アル」の特性と共通する³⁾。「売る」自体にはこの特性はない。

第三に、売ってある表現は共通語テアル構文 A1 型と同様に、存在動詞アルとの等位接続が可能である³⁾。

第四に、これも共通語テアル構文 A1 型と同様に、典型的な存在表現から成る問いの文に対する適切な答えの文になり得る³⁾。

第五に、同じく共通語テアル構文 A1 型と共通する特性であるが、ガ格名詞句に対して有生性が低いことを要求する選択制限がかかる。

第六に、「箱売りしてある」「たたき売りしてある」のような売ってある表現の変種においても、「箱売り」「安売り」のような、ガ格対象物名詞句の状態を表す表現は容認されやすく、「量り売り」「たたき売り」のような、売り手行為者（動作主）の動作行為を強く想起させる表現では容認可能性が顕著に低下する。

以上、上記 6 つの事実から、売ってある表現においては本動詞「アル」が語彙的に持つ統語的・意味的特性が濃厚に保持されていると主張できる。

6. 売ってある表現における「売る」という動詞の意味

本節では、売ってある表現における「売る」という動詞の意味について考察する。

前節の動作主行為の濃淡による容認度調査で、興味深い事実が確認できた。それは、(16)の「売ってある」

と(17)の「箱売りしてある」との間に有意差が見られなかったことである。これにより、本調査の被験者は「売ってある」および「箱売りしてある」という文における動作主含意の程度は同程度であると捉えたことが示唆される。この事実は、売ってある表現における「売る」という動詞の意味について考察する材料となると考える。

前節で述べたように、(17)の「箱売りしてある」においては、箱に入った商品が店頭などに並べられている状態を連想すると考えられる。この(17)と(16)の間に有意差がないという事実は、(16)の「売ってある」においても、売り手行為者(動作主)が商品(対象)を売っている行為ではなく、商品(対象)が店頭などに置かれている状態を意味していると考えられる。つまり、「[対象]が売ってある」という表現は、「対象が売り物として(店頭などの場所に)存在している状態である」と言える。このことから、売ってある表現における「売る」という動詞は、動作主の行為が色濃く含意されておらず、「商品などの対象を店頭などの場所に設置した」という意味を表していると考えられる。

これは、「イチゴが売っている」という表現に関する2つの研究⁹⁻¹⁰⁾での見解とも一致する。「[対象]が売っている」という表現は近年その使用の増加が報告されている表現であるが、本研究の売ってある表現と意味的に非常に類似した表現であると考えられる。その研究の中で又平⁹⁾は、「売る」という動詞には、商品の所有権の移動があるもの(有対他動詞)とないもの(無対他動詞)とがあり、「イチゴが売っている」という表現は所有権の移動がなく、単に「商品としてモノが存在している」ということだけを表現したいときに使用されていると主張している。また、田川¹⁰⁾は「売る」は「書く」などの生産類の動詞と違って、「売る」という一つの具体的な動作が存在せず、値札が付いているだけでそのモノを「売っている」ことになるため動作主を抑制しても「売る」という事態が成立し得ると述べている。

本研究の売ってある表現の「売る」という動詞も同様の意味を持つと考える。売ってある表現の「売る」という動詞は、「商品などの対象を店頭などの場所に設置した」という意味であるため、商品の所有権の移動がなく、動作主の行為が色濃く含意されないのである。さらに動

作主が抑制されても、田川¹⁰⁾が主張するように店頭などの場所に商品としてモノが存在していることで「売る」という事態が成立していると考えられるのである。

7. まとめと今後の課題

本稿では、質問紙調査および地方議会会議録調査により、①長崎方言話者による売ってある表現は気づかない方言であるか、②売ってある表現では本動詞「アル」の語彙的特性が濃厚に保持されているか、という2点について検証した。

その結果、長崎方言話者は「[対象]が売ってある」という表現に対して共通語意識を持っており、長崎の地方議会会議録においても36例の売ってある表現が確認できたことから、売ってある表現は気づかない方言であることが確認された。さらに、売ってある表現の特性として、①ガ格に現れる名詞は非情名詞の方が容認されやすく、②有情名詞の場合、動物より人の方が容認されにくく、③動作主の行為が色濃く含意される動詞ほど容認度が下がる、ということがわかった。このことから、売ってある表現では本動詞「アル」の語彙的特性が濃厚に保持されていることが明らかになった。

しかしながら、質問紙調査においては70-80代の人数が他の年代に比べ極端に少なかったため、年代間の差については比較・検討できなかった。また、売ってある表現と意味的に類似した「売っとる」「売りよる」「[対象]が売っている」という表現については、本調査で調査項目としながらもデータ分析にまで至らなかった。さらに、桑戸・上野(2011)で課題となっていた売ってある表現の地理的広がりについても検証できなかった。

今後は、各地の地方議会会議録調査および質問紙調査を実施し、売ってある表現の地理的広がりについても検証していきたい。また、「売っとる」「売りよる」「[対象]が売っている」という表現との比較・検討も実施していきたい。

注

- 1) 文脈による容認度判定への影響を避けるため、「人が鎖につないである。」の「人」を「人質」に変えて提示した。

- 2) 長崎県議会会議録には、調査日時点で平成 8 年 2 月から平成 29 年 2 月までの全ての本会議・委員会の議事録が掲載されていた。
- 3) 長崎市議会会議録には、平成 5 年 9 月からの本会議、平成 11 年 7 月からの常任委員会、平成 12 年 3 月からの特別委員会、平成 7 年 1 月からの議会運営委員会、平成 7 年 5 月からの世話人会、平成 11 年 5 月からの全員協議会、平成元年 1 月からの各派代表者会議の会議録が登録されている。調査日時点で平成 29 年 6 月までの全会議の会議録が掲載されていた。

参考文献

- 1) 益岡隆志：命題の文法—日本語文法序説，くろしお出版，(1987) pp.199-235
- 2) 森田良行：動詞の意味論的文法研究，明治書院 (1994) pp.193-207
- 3) 桑戸孝子，上野誠司：長崎方言話者による自動詞化テアル構文の非標準的使用の予備的分析—非結果相の「売ってある」，長崎総合科学大学紀要，第 51 巻 (2011) pp.1-6
- 4) 影山太郎：動詞意味論，くろしお出版，(1996)
- 5) 影山太郎：自他交替の意味的メカニズム，ひつじ書房，(2000) pp.33-70
- 6) 陣内正敬：地方中核都市方言調査報告—福岡市・北九州市—，九州大学言語文化部日本語学科，(1993) p.14
- 7) 二階堂整・川瀬卓・高丸圭一・田附敏尚・松田謙次郎：地方議会会議録による方言研究—セミフォーマルと気づかない方言—，方言の研究 1，ひつじ書房，(2015) pp.313-324
- 8) 田中宣廣：地域言語的用法の共通語視，鈴木良次 (編)，言語科学の百科事典，丸善出版，(2006) pp.396-397
- 9) 又平恵美子：「イチゴが売っている」という表現，筑波日本語研究，6 号 (2001) pp.93-102.
- 10) 田川拓海：擬似自動詞の派生について—「イチゴが売っている」という表現—，筑波応用言語学研究，9 号 (2002) pp.15-28